

# 混合診療解禁に対する意識に関する調査 【結果】

2014年1月

いつも弊社のインターネットアンケートにご回答いただき、誠にありがとうございます。

2013年秋に、弊社の自主企画調査として、TPP交渉参加に伴い話題となることが増えてきた、「混合診療」に関するインターネットアンケートを実施いたしました。

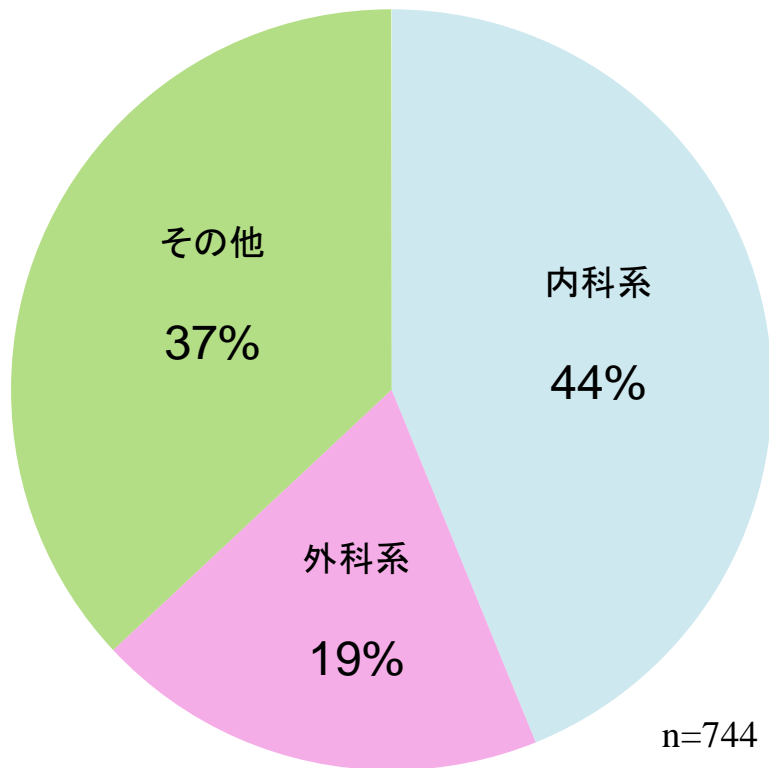
先生方のお考えをまとめておりますので、ご一読頂ければ幸いです。

#### ■調査概要

- 調査実施時期 2013年9月30日～10月9日
- 調査方法 インターネットアンケート
- 対象者 弊社インターネットアンケートモニター登録している医師
- 回答医師数 744人

# アンケート回答医師の属性(診療科)

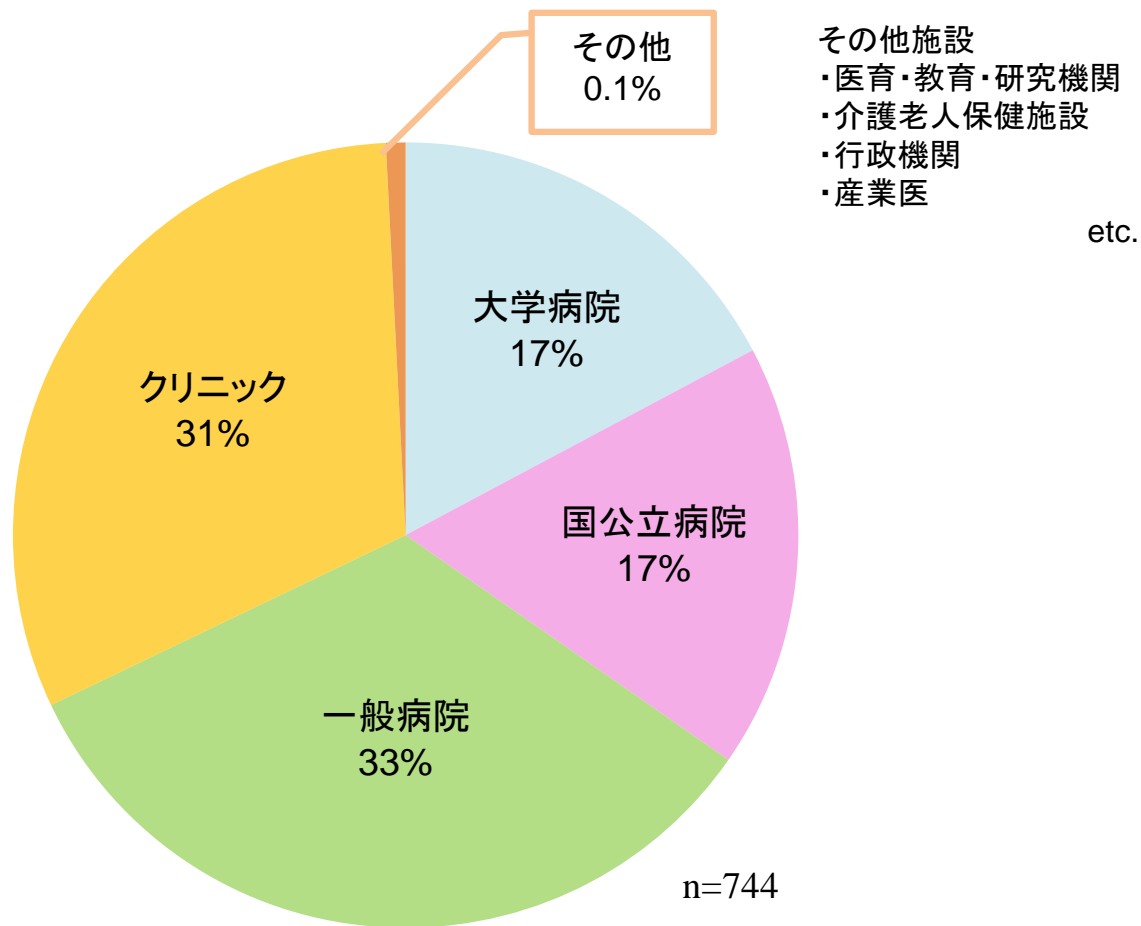
回答した医師の診療科内訳は以下の通りとなった。



内科系	外科系	その他
一般内科	一般外科	産婦人科
腫瘍内科	心臓血管外科	皮膚科
循環器内科	消化器外科	泌尿器科
消化器内科	呼吸器外科	耳鼻咽喉科
呼吸器内科	脳神経外科	精神科・神経科
感染症科	整形外科	眼科
血液内科	リハビリテーション科	小児科
代謝・内分泌内科	形成外科・美容外科	小児外科
リウマチ科・膠原病科	乳腺外科	麻酔科・ペインクリニック
アレルギー科	頭頸部外科	放射線科
腎臓内科	口腔外科	その他診療科
神経内科	救急・ICU	
心療内科	その他外科	
その他内科		

Q1 先生の主たる診療科をお知らせください。

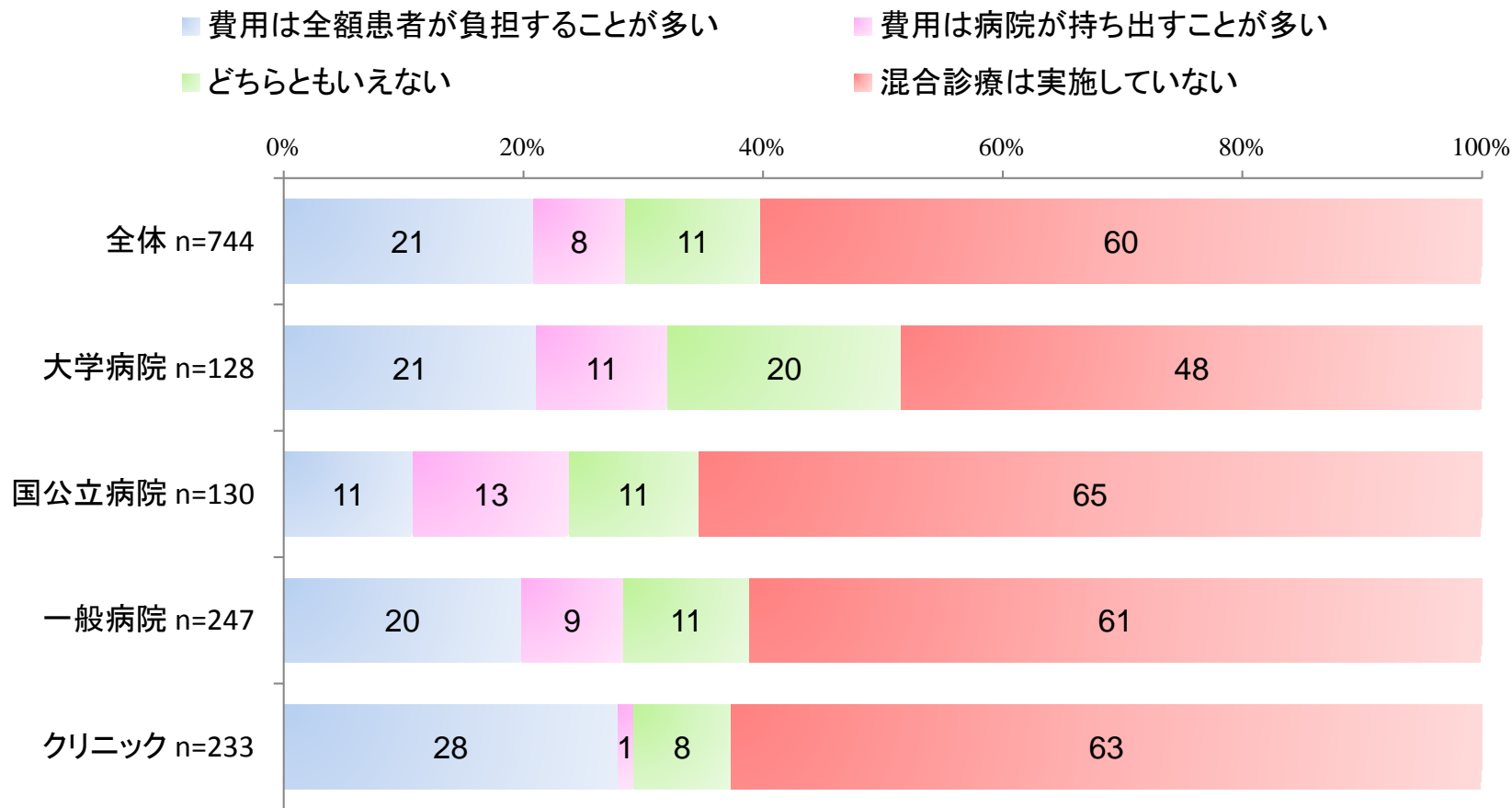
# アンケート回答医師の属性(施設形態)



Q2 先生が主に勤務されている施設の経営形態をお知らせください。

# 回答結果

# (現在)混合診療実施時の費用持ち出しに関して

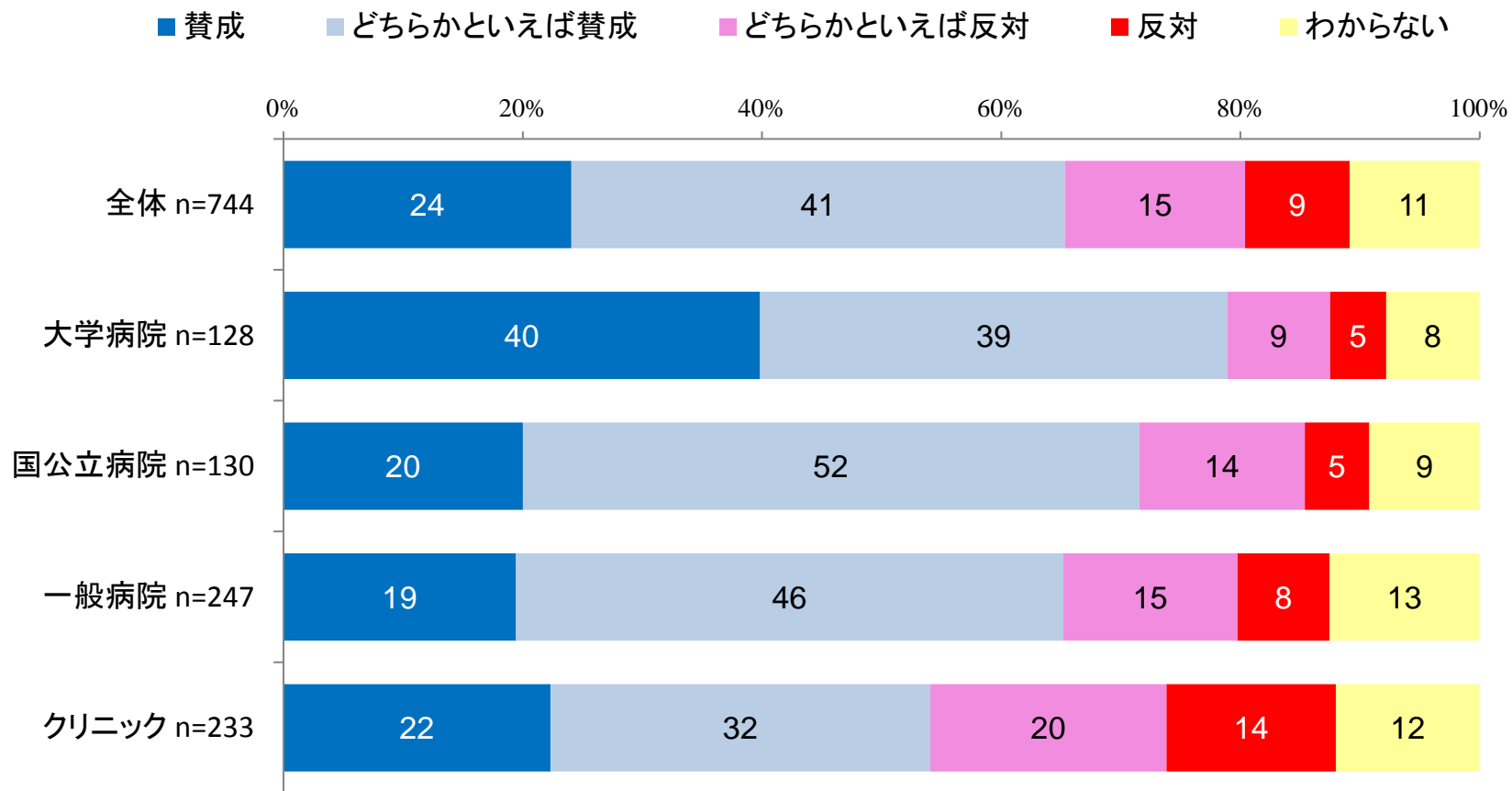


Q4 現在、混合診療を実施される際の費用負担状況についてお知らせください。



# 混合診療解禁に関する質問

# 混合診療解禁に関する考え



Q5

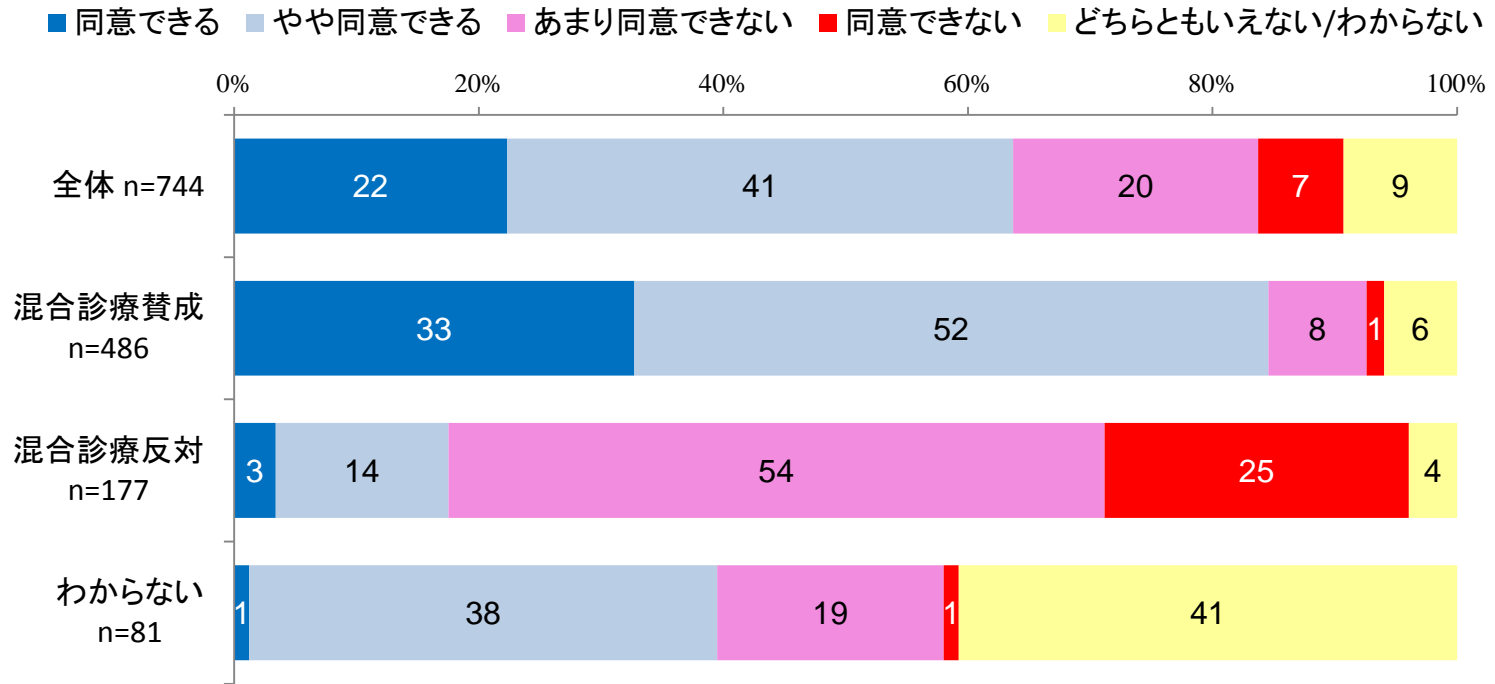
先生は、混合診療の解禁についてどのようにお考えでしょうか。

※本調査においては、混合診療の解禁を際限なく保険診療と保険外(自由)診療の併用が行える状況と定義しております



# 混合診療解禁によって起こる可能性がある仮説に対する考え (医療技術の発展)

## 仮説①A: 混合診療解禁により、『医療技術の発展』が期待できる



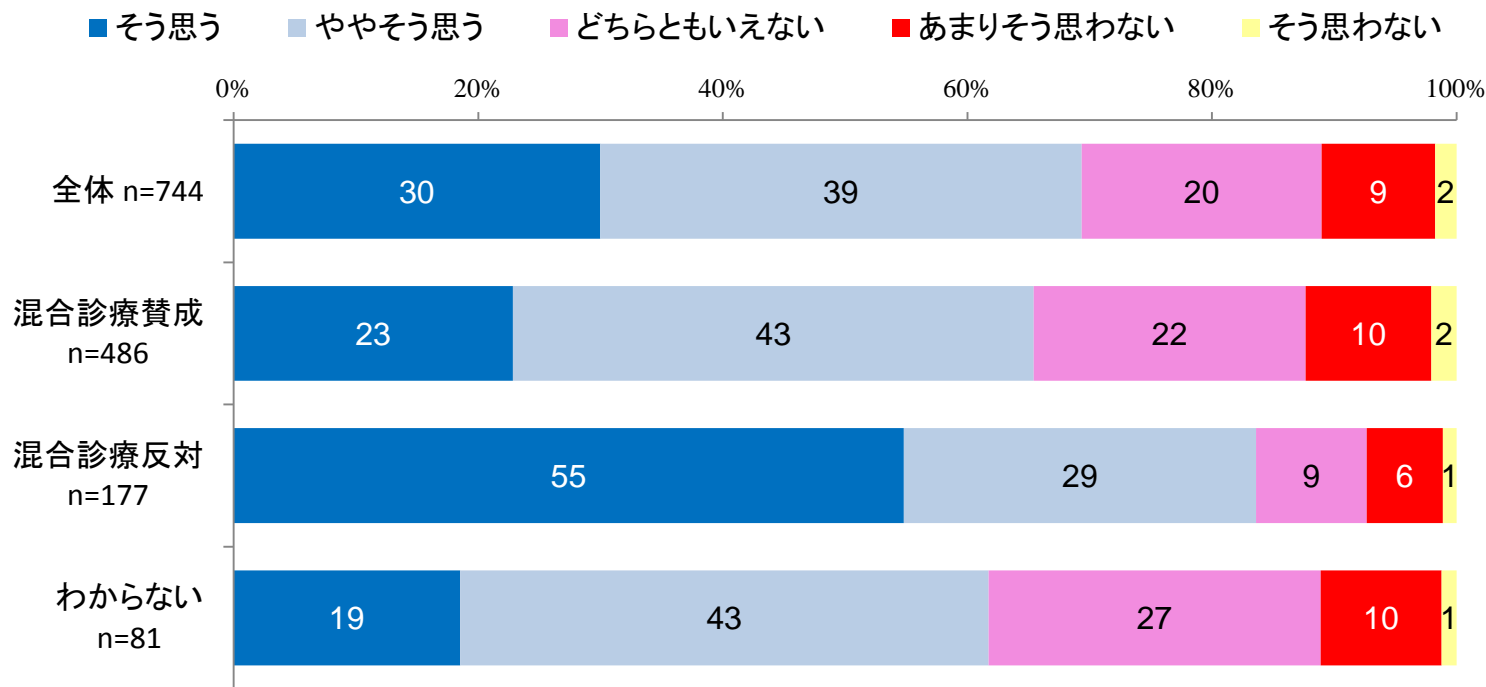
Q5質問で、混合診療解禁に対して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した医師を“混合診療賛成”群、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した医師を“混合診療反対”群、「わからない」と回答した医師を“わからない”群とした。

Q6

混合診療の解禁によって、より積極的な治療が行われ、結果的に『医療技術の発展』が期待できるとの声があるようです。先生はこの意見についてどう思われますか。

# 混合診療解禁によって起こる可能性がある仮説に対する考え (医療技術発展に対する違う面からの仮説)

仮説①B: 混合診療解禁により、本来は保険診療であるべき新しい医療の保険適応を国が認めなくなったり、企業も保険適応申請をしなくなる



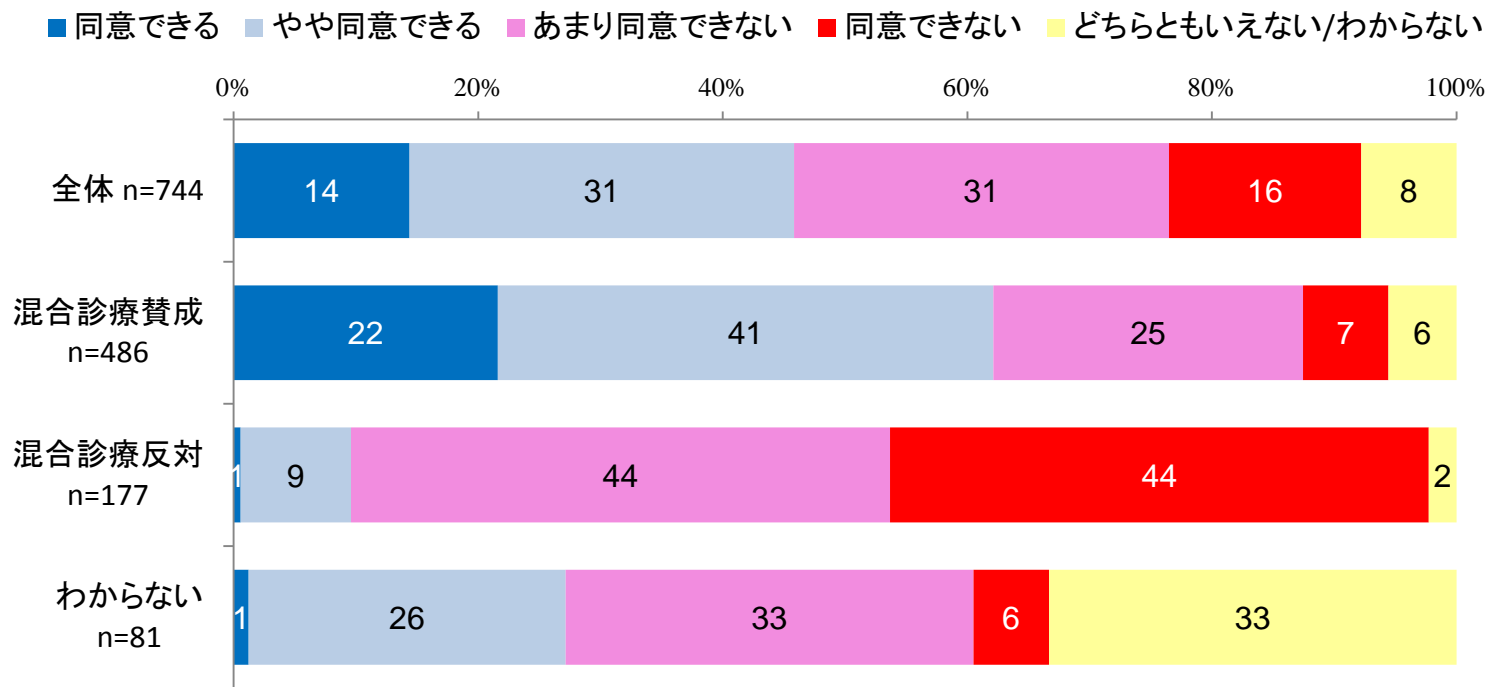
Q5質問で、混合診療解禁に対して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した医師を“混合診療賛成”群、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した医師を“混合診療反対”群、「わからない」と回答した医師を“わからない”群とした。

Q7

混合診療の解禁により、国が本来は保健適応とすべき新しい医療の保険適応を認めにくくなったり、製薬メーカーも無理に保健適応の申請を行わない可能性も示唆されています。国やメーカーがこのような方向に進む可能性があると思われますか。

# 混合診療解禁によって起こる可能性がある仮説に対する考え (先進医療を受ける際の金銭的負担軽減)

仮説②A: 患者さんが現在よりも金銭的な負担が少なく、先進医療を受けることができる



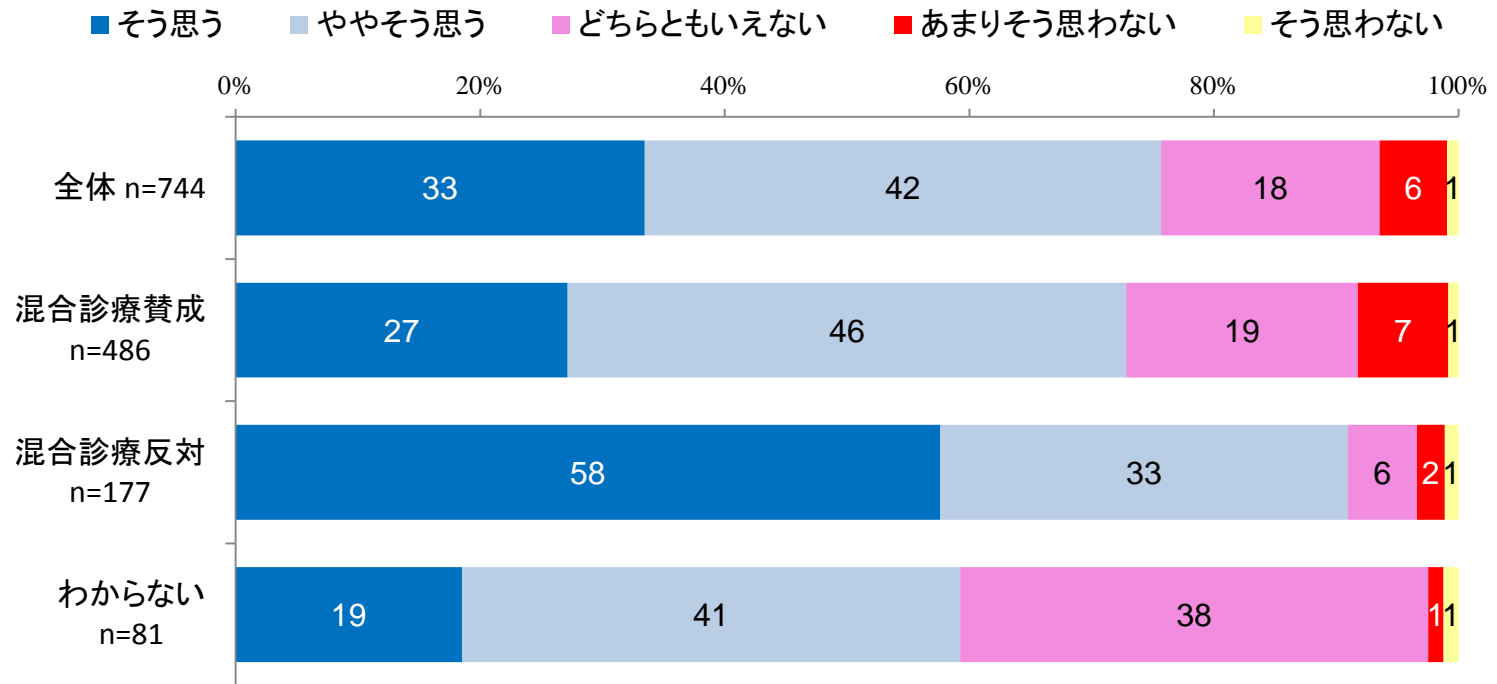
Q5質問で、混合診療解禁に対して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した医師を“混合診療賛成”群、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した医師を“混合診療反対”群、「わからない」と回答した医師を“わからない”群とした。

Q8

混合診療解禁により、現在よりも金銭的な負担なく患者が先進医療を受けやすくなると言われています。  
先生はこの意見についてどう思われますか。

# 混合診療解禁によって起こる可能性がある仮説に対する考え (金銭的負担増加)

## 仮説②B: 保健適応範囲が狭まり、患者の金銭的負担は増加する

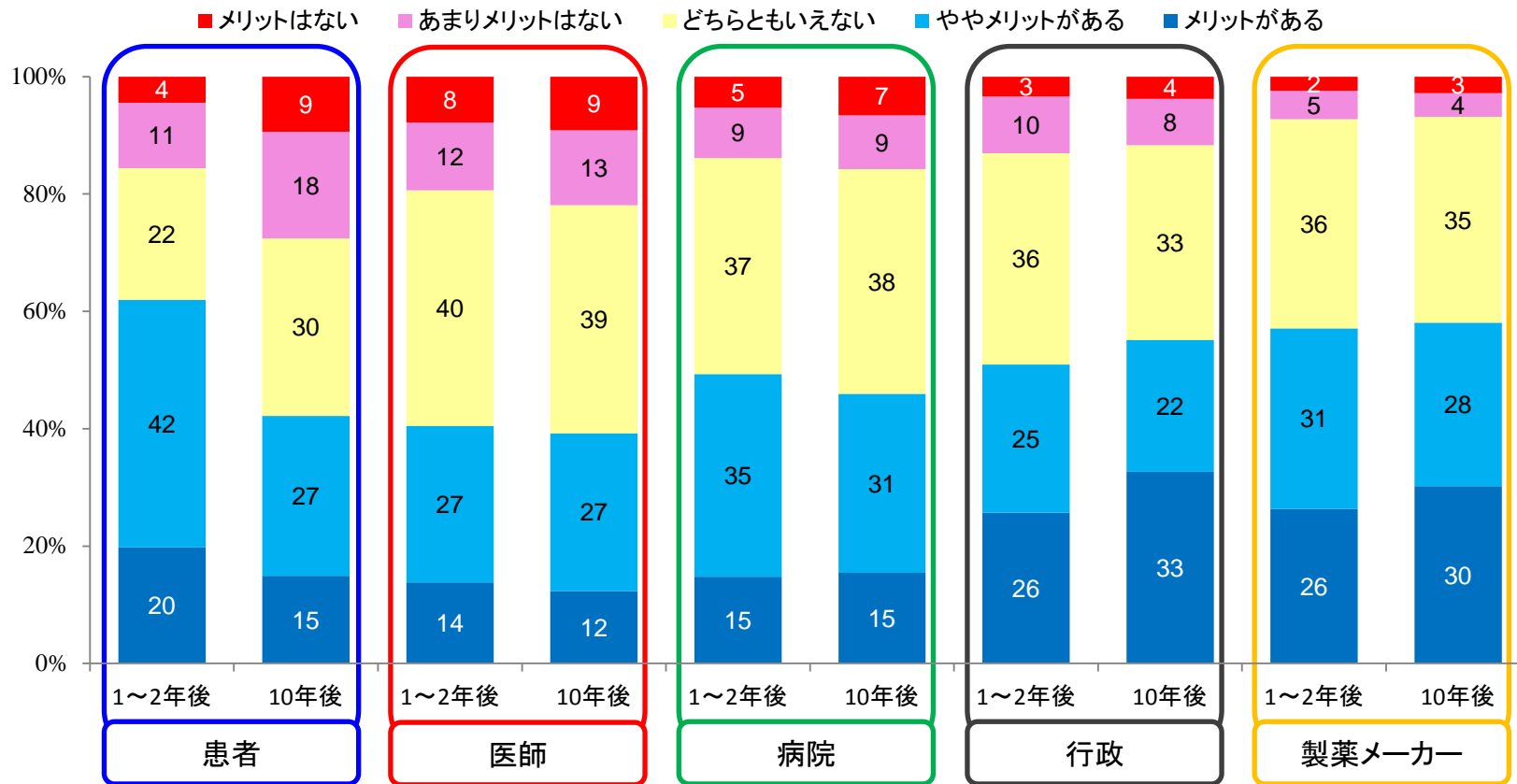


Q5質問で、混合診療解禁に対して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した医師を“混合診療賛成”群、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した医師を“混合診療反対”群、「わからない」と回答した医師を“わからない”群とした。

Q9

混合診療解禁により、保険診療の範囲が狭まり(本来であれば、保健適応となっていた治療が適応外のままとするため)、患者の医療費負担が増加する可能性が指摘されています。混合診療の解禁により、結果的に患者の医療費負担が増加すると思われますか。

# 混合診療解禁による短期メリットと長期メリットの享受者に関して(医師全体 n=744)

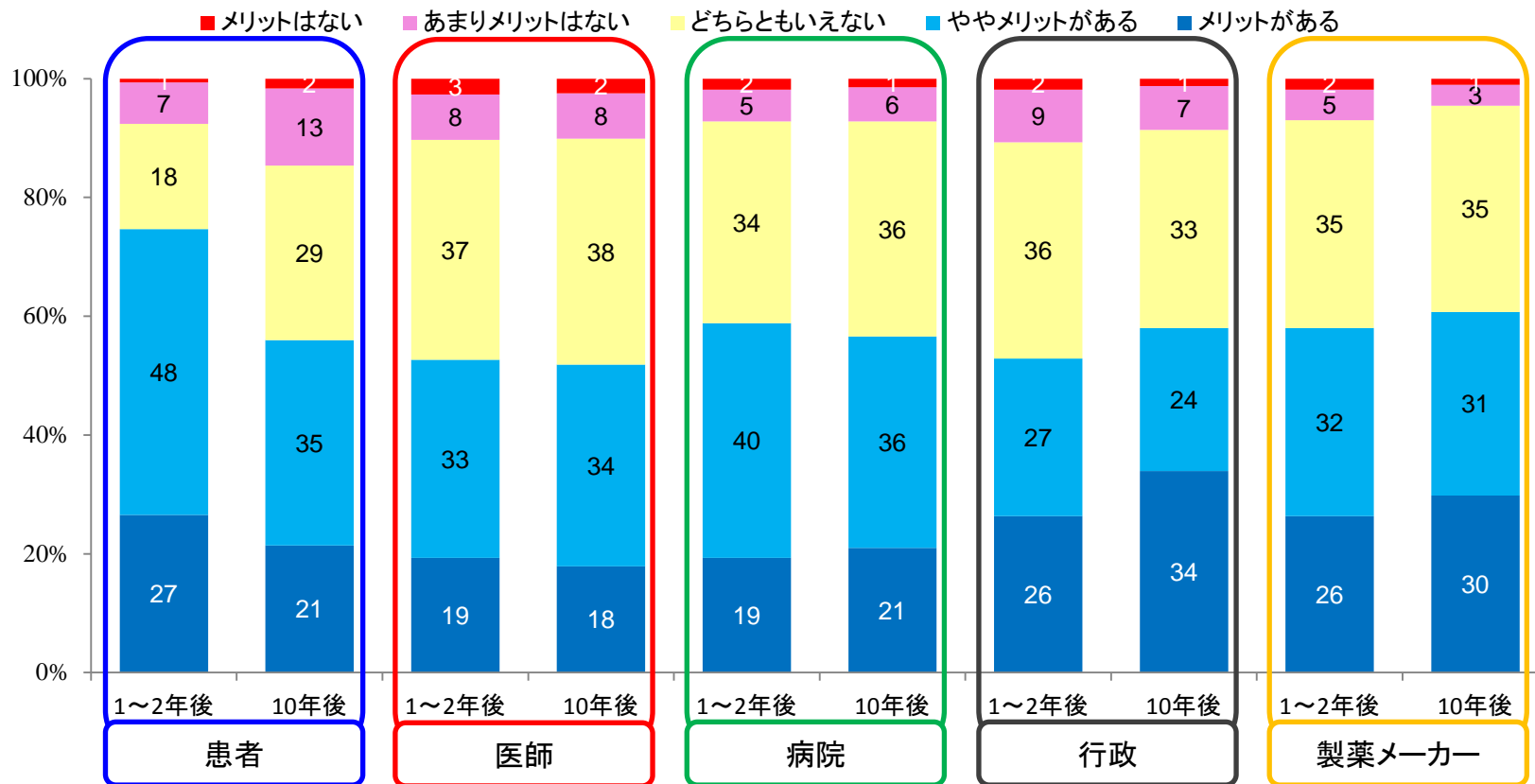


Q10

混合診療の解禁により、様々な立場において短期的なメリットと長期的なメリットがあると言われています。仮に混合診療が解禁されたとして、1~2年後と10年後を考えた場合、各立場のメリットについて先生のお考えをお知らせください。

# 混合診療解禁による短期メリットと長期メリットの享受者に関して(混合診療賛成医師群 n=486)

Q5質問で、混合診療解禁に対して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した医師を“混合診療賛成”群とした。

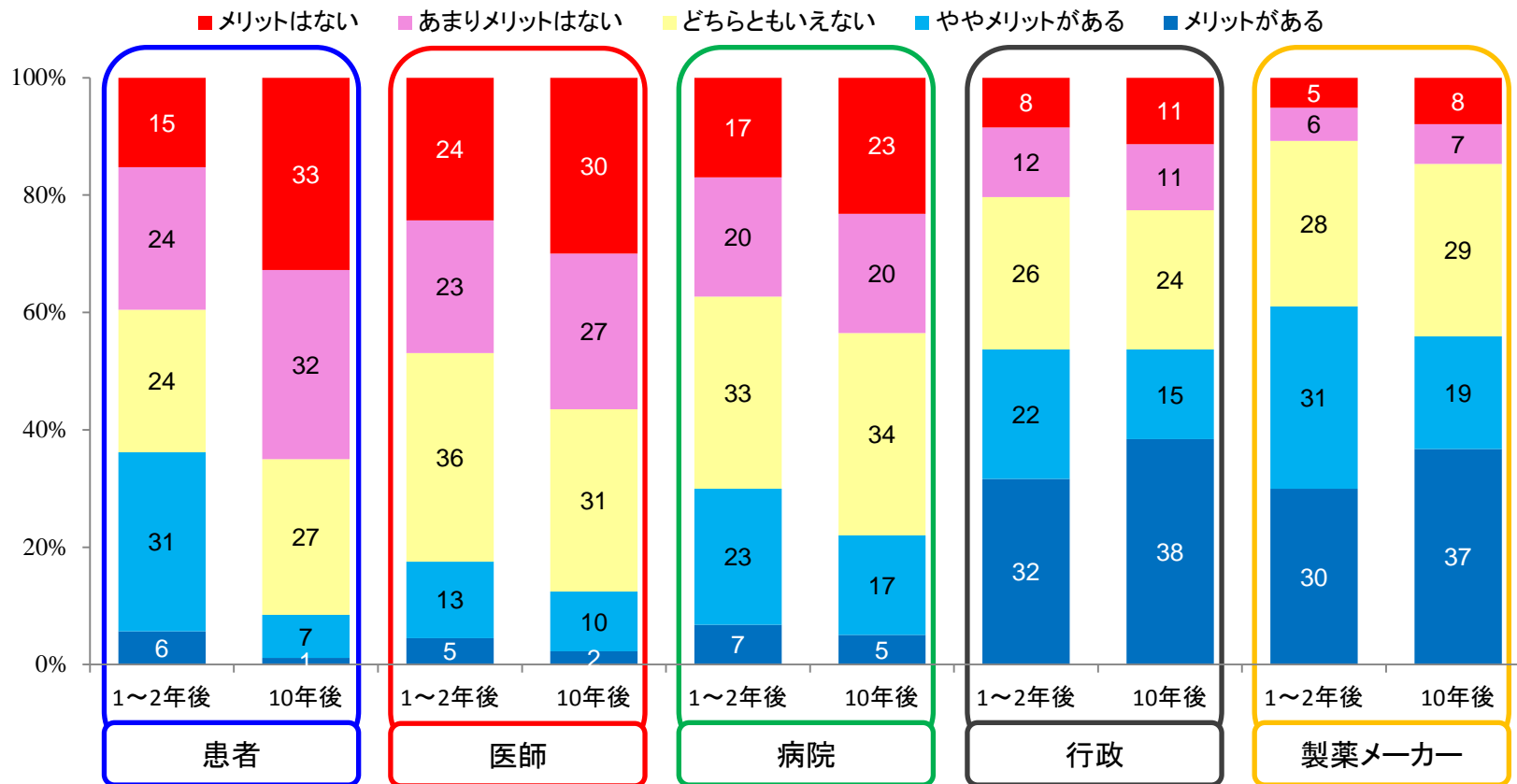


Q10

混合診療の解禁により、様々な立場において短期的なメリットと長期的なメリットがあると言われています。仮に混合診療が解禁されたとして、1~2年後と10年後を考えた場合、各立場のメリットについて先生のお考えをお知らせください。

# 混合診療解禁による短期メリットと長期メリットの享受者に関して(混合診療反対医師群 n=177)

Q5質問で、混合診療解禁に対して「反対」「どちらかといえば反対」と回答した医師を“混合診療反対群”とした。

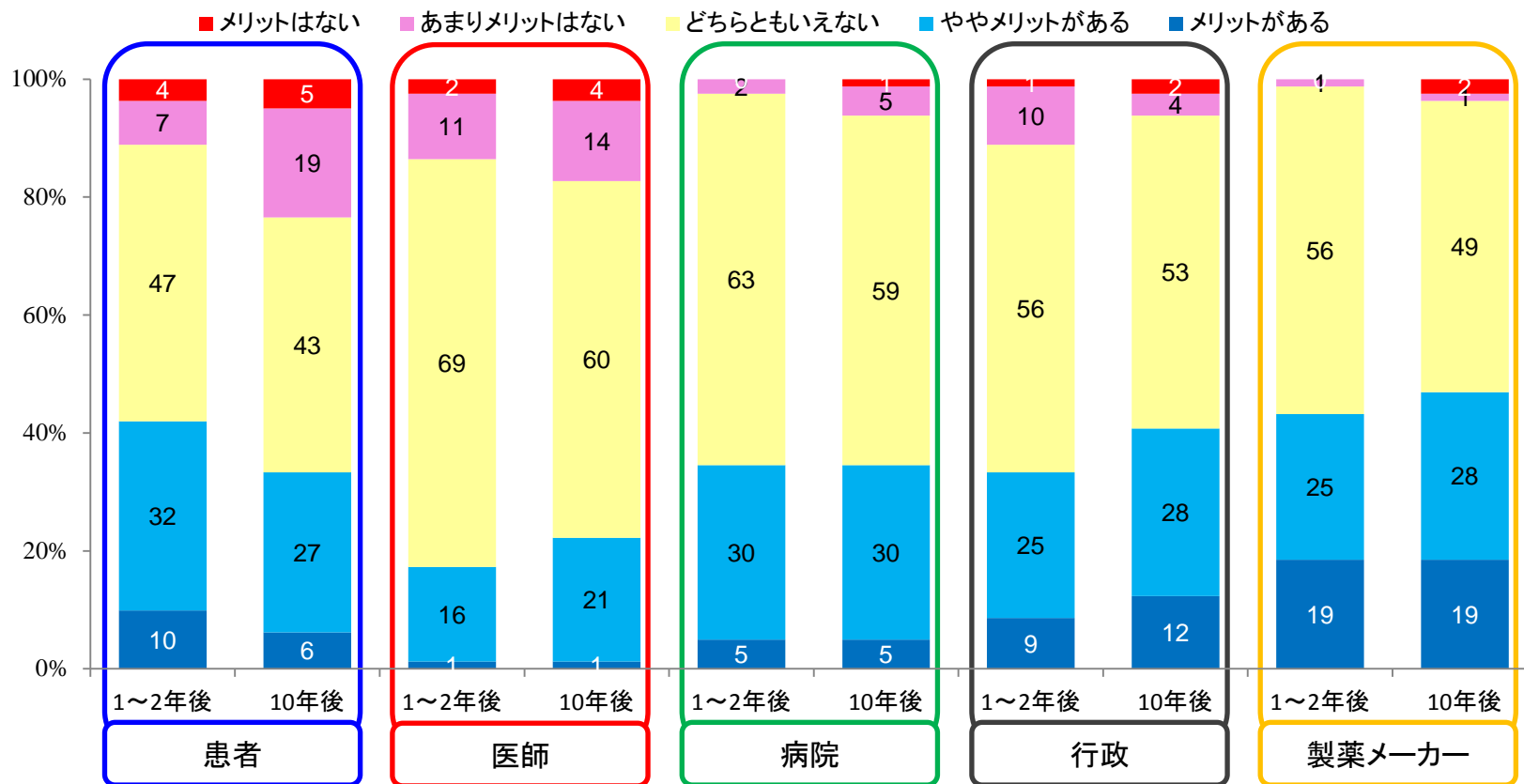


Q10

混合診療の解禁により、様々な立場において短期的なメリットと長期的なメリットがあると言われています。仮に混合診療が解禁されたとして、1~2年後と10年後を考えた場合、各立場のメリットについて先生のお考えをお知らせください。

# 混合診療解禁による短期メリットと長期メリットの享受者に関して(混合診療賛否わからない医師群 n=81)

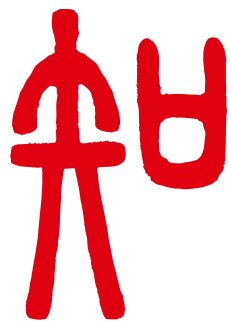
Q5質問で、混合診療解禁に対して「わからない」と回答した医師を“わからない”群とした。



Q10

混合診療の解禁により、様々な立場において短期的なメリットと長期的なメリットがあると言われています。仮に混合診療が解禁されたとして、1~2年後と10年後を考えた場合、各立場のメリットについて先生のお考えをお知らせください。





**anterio**  
DECISIONS WITH CONFIDENCE <sup>®</sup>